



ご挨拶  
教頭 鶴田 葉月

初夏の海星は、キャンパスを彩る新緑と花々が目を楽しませてくれています。正門から上がる坂道では見事に整えられたつづじが豪華に花を咲かせ、また、ルルド裏の藤は一本の幹から藤棚いっぱいの花房を垂れさせさせていて、ポスターにしたいほどの美しさです。何もかもが輝いて、豊かな自然を満喫したくなる4月28日、それぞれの学年・コースが平和の旅(長崎外海地区・長崎市内)・ルーツの旅(熊本)・歓迎遠足(能古島)に出かけ、クラスメートとの親睦を深めながら、研修を行いました。楽しい中にも、歴史を学び、現地の教会で平和を祈ることができて、実りの多い一日となりました。

5月は聖母月、マリア様の月で、「希望」を学校生活のテーマとしております。「希望はわたしたちを欺くことがありません。」(「ローマの信徒への手紙」第5章5節より)という意向を元に、本校生徒の卒業時の到達目標「18歳のわたくし(=生徒手帳に掲載)」の中から、惜しげもなく社会や人のために自分を使い、他者のために自分を生かす喜びを見出すことができる姿勢を学んでいます。本校で毎月掲げるテーマについては、毎朝夕のホームルーム、宗教の授業や講堂朝礼で学習しておりますが、保護者の皆様にも、ホームページや海星タイムズでご紹介していきます。どうぞ目を通してください、心を育てる本校のカトリック教育について、理解を深めてくださいますようご案内いたします。

さて、12日にいよいよ体育会が開催されます。本校体育科オリジナルの競技に加え、団長がリードする応援団の演舞と、ダンスリーダー長とダンスリーダーたちが創作したさわやかなダンスも完成間近で、本番の披露が今から楽しみです。生徒会デザインのTシャツは愛着が湧く

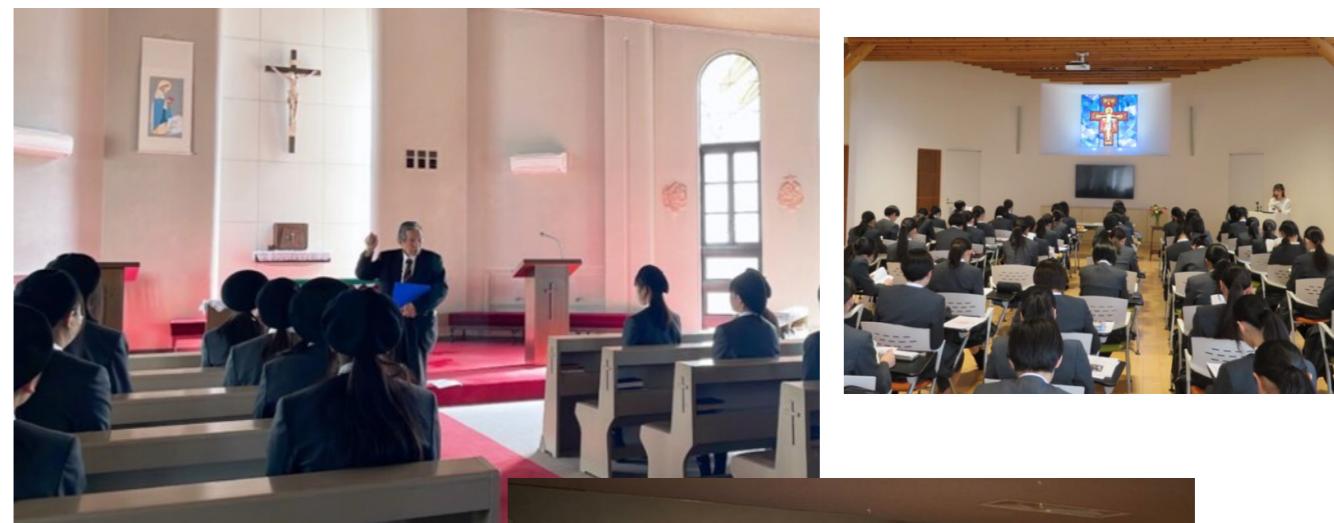
# ご入学 おめでとうございます

桜が咲き誇る美しい春の日、第62回入学式が行われ、新たな海星ファミリーを迎えるました。午前はグローバル特進コース・国際教養コース・進学コース、午後は今年度新設されたブライトコースと、コースごとの入学式でした。皆でお祈りをし、聖書のことばに耳を傾け、聖歌を歌い、新入生の入学を喜び祝いました。校長先生の式辞では、本校が大切にする「祈り」についてお話をありました。

新入生の皆さん、みなさんを海星ファミリーにお迎えすることができて、心から嬉しく思います。実りある3年間にていけるよう、共に歩んでいきましょう。



4月9日~11日の3日間、新入生のための研修が行われました。コースに分かれての研修でした。校長先生からは海星のスクールポリシーについてお話をいただき、副校长先生からは学習についてお話をいただきました。また、老司教会、研修、オリエンテーリング、キャンドルサービスなど、様々なプログラムに参加しました。キャンドルサービスでは、校章をかたどったキャンドルがマリア様に代わって担任の先生から一人ひとりに授けられました。ろうそくの灯を見つめながらこれから始まる3年間の高校生活に想いを馳せ、祈りを捧げました。これから海星のことを少しずつ、少しずつ知り、「地の塩、世の光」として神様からいただいた光を輝かせていきましょう。



## 平和の旅(1学年)

4月28日、1年生は「平和の旅」に参加しました。

「平和の旅」とは、2018年に世界文化遺産に登録された、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を通して外海の出津集落を巡る旅です。

旅を通して、信仰と平和の尊さを学び、「愛」について考えることができました。

### ☆生徒の感想（一部抜粋）

ド・ロ神父さまは、貧しい人々のために自分の財産を使い、最新のオルガンや時計をヨーロッパから輸入したり、機械や施設を作ったりして、手を差し伸べたということを知りました。

私も、ド・ロ神父さまのように、困っている人や貧しい人々に対して、優しくて温かい人になりたいと思いました。今回の平和の旅で、ド・ロ神父さまについて知ることが出来て良かったです。



▲ブライトコースは、「玄海国定公園のこのしまアイランドパーク」に行きました。

## 平和の旅(2学年)

私たち2学年は、「平和の旅」で信仰と平和の尊さを学ぶべく、長崎県にある「日本二十六聖人記念館」、「長崎平和公園」、「カトリック浦上天主堂」を訪れました。事前学習として宗教の時間やクラスHRで「信仰と平和」について学び、祈りのつどいの練習をおこないました。日本二十六聖人記念館では潜伏キリシタンの祈りから明治時代の信仰の復活までの歴史を学びました。カトリック浦上天主堂や被爆マリア小聖堂では神父様のお話を伺い、祈りのつどいを通して平和をもとめる祈りをささげることができました。

カトリックの学校の生徒ならではの貴重な体験ができたことに感謝し、今回の旅を通して学び得たことを、今後の学校生活や生き方に反映できるように努めていきたいと思います。



### ☆生徒の感想

今回、浦上天主堂の神父様のお話を伺い、深い感動と考えさせられる時間を過ごしました。長崎の地において浦上天主堂はキリスト教信仰の象徴であり、多くの信徒たちの祈りの場であったことを改めて知ることができました。原爆によって天主堂が一瞬にして破壊され、多くの信徒たちが命を落としたことを語られました。その中でも特に心を打たれたのは爆心地で傷つきながら奇跡的に残った「被爆マリア像」のお話です。黒く焦げ、片目を失ったマリア様の姿でした。それでもなお、マリア様は優しく私たちを見守り続けてくださっているかのようでした。浦上天主堂は単なる歴史の遺産ではなく今も生き続ける「祈りの場所」であることを実感しました。そして私もマリア様の優しさと強さを心に刻みながら日々を大切に生きていきたいと感じました。

## ルーツの旅(3学年)

3学年は海星のルーツを学ぶために熊本へ行きました。慈恵病院では、こうのとりのゆりかごを見学し、看護師の方から直接お話をいただき、子どもを授かることの尊さ、命を育むことの大切について学びました。生徒たちは、これまでこうのとりのゆりかごの設置に携わった田尻先生の講演や事前学習などでこうのとりのゆりかごについて考えてきましたが、実際にゆりかごを目の当たりにし、扉を開け、ゆりかごの中を見たことで、自分が命を授かったときのこと、ここを訪れた母親の苦悩を自らのこととして考えることが出来たようです。

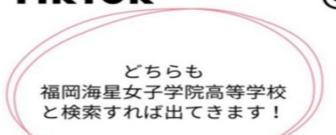
その後、修道院に移動してシスター入江から海星のルーツについてお話をいただきました。海星のルーツである5人のシスターが最初は、ただ苦しんでいる人たちを救いたい、その一心で「はい」と答えたところから始まったということを知りました。海外からやってきたシスター方が熊本でハンセン病に苦しんでいる方たちの看病をした、目の前の苦しんでいる方に救いの手を差し伸べた、そのことが慈恵病院、海星へつながっていることについて改めて説明を受けました。その中でシスター入江は、「最初は小さくても良い。最初から大きな事をしようと思うのではなく、小さな事から始めるべき。大切なことは、始めるときの想い」という大変貴重なお話をいただきました。そのことは、生徒の感想にも多く書かれていました。今回のルーツの旅を経て、自分が海星に来たこと、海星の教育目標である「あなたがたは地の塩、あなたがたは世の光である」の意味が分かってきたようでした。感想の中には、入学してから今まで学んできたことが一つの線でつながったような感覚を持ったと書いた生徒もいました。卒業まであと1年を切りました。これからも海星での学びを深め、これから的人生の指標となる価値観をつくりあげてもらいたいと感じる、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。



5月のキッチンカーデー(15日)は  
フルーツサンドです。

体育会当日も  
「焼きそば」と  
「クレープ」の  
キッチンカーが  
来ます。  
お楽しみに！！

TikTok



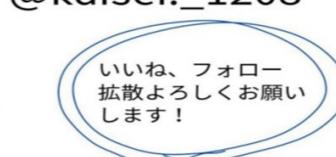
instagram



@f.\_kaisei



@kaisei.\_1208



### Schedule of events

5/12	月	体育会
5/14	水	進路適性検査 (1・2年)
5/15	木	キッチンカー
5/21	水	宗教朝礼 (聖母月)
5/28 ～30	水～ 金	中間考査